

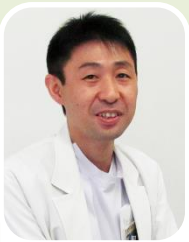
わきあいあい

No.20

社会医療法人小寺会 佐伯中央病院 広報誌



佐伯の太陽の外観です。6月25日オープンに向け、着々と準備が進んでいます！



新年度を迎えて

佐伯中央病院 副院長 小寺 隆元

本年3月21日に東九州自動車道が開通し、これにより大分県は全線開通となりました。大分県から宮崎県までの利便性が格段に向上しました。皆でアイデアを出すことにより、経済的にも地域が活性化することを期待しております。

さて、当院も地域の活性化、地域貢献の為にますますの医療・介護・福祉に力を入れていきたいと考えております。当院は糖尿病を中心とする一般内科治療、リハビリテーション、緩和ケアとこれまでの医療体制に加え、順次、整形外科・脳神経外科の新たな診療科を立ち上げ、医療の充実を図っております。おかげ様で患者さんのご支持を頂き、手術件数は平成25年8月の開設から400件を超えております。さらに救急医療体制作りにも力を入れ、救急車の受け入れ数も一昨年に比べ3倍近くとなっております。今年度4月より2次救急医療機関に加わることとなりました。佐伯市の医療体制をより充実させ、地域住民の方に安心して医療を受けて頂けるよう邁進して参ります。また6月には地域包括ケアセンター「佐伯の太陽」が開設します。医療・介護・福祉が一体となり、地域の方々へ質の高い、わかりやすいサービスを提供していく所存です。今後とも、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、「佐伯の太陽」はもちろんのこと、各病院や各施設にも新たな職員が入職されます。今いる職員の方々とも力を合わせて、よりよい体制となりますよう一緒に頑張っていきたいと思います。

本年度も素晴らしい「人材」が入職しました！

新入職員

研修会



新年度、皆さんはどのような気持ちで迎えられたのでしょうか。新入学、新入職、部門異動、昇進、等々一人ひとり、これからの「想い」や「決意」があるかと思えます。そのような中、本年度も当院では多くの新入職員を迎えて研修会を行いました。

新入職員を代表して今年晴れて看護師として勤務することになった、入江朝百合さんより決意表明があり、今後の活躍が楽しみな、希望と夢にあふれる言葉をいただきました。

1日目は辞令交付式、各部門の紹介や個人情報保護、接遇や医療安全の勉強会があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。2日目はBLS、AEDの実技研修や車椅子介助の練習を行い、その後それぞれの部門ごとに研修を進め現在業務に就いています。

皆さんが今後、大きく飛躍できるように、私たち先輩職員も初心を忘れず、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。



地域包括ケアセンター 佐伯の太陽より



川浪 喜代司 医師

地域包括ケアセンター佐伯の太陽では、クリニックを施設内に設けます。そのクリニックの院長として、九州大学医学部卒業後、福岡で長年にわたり開院され、現在もご活躍されています。川浪喜代司 医師をお招きし、施設にお住まいの方でも安心して診療を受ける事が可能な体制を整えています。内科・外科、経験豊富な先生です。クリニックに来院された際は、お気軽に症状等ご相談下さい。

私たちの部門 紹介します！

～食事療養部～



管理栄養士 4 名 / 栄養士 1 名 / 調理師 11 名 / 合計 16 名で
患者様の個々に応じた必要な栄養ケアを行います。

チーム医療活動について

●栄養サポートチームとは？

～NST (Nutrition Support Team)～

医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、
作業療法士、言語聴覚療法士、臨床検査技師、歯科衛
生士など多くの専門スタッフが力を合わせて、適切な
栄養管理を受けていただくための栄養支援を行うチ
ームです。

当院のNSTは、2013年より管理栄養士がNST
専従者となり、栄養支援の実践と充実に努めています。
低栄養、食欲低下の患者様に対して、直営
ならではの細かい対応をより迅速に行っております。

●糖尿病サポートチーム

日本糖尿病学会教育認定施設として日本糖尿病療養
指導士、大分県糖尿病療養指導士の資格をもつ管理
栄養士が積極的に活動しています。その一つに、患者
様に食事療法を楽しみながら理解を深めていただく
ことを目的に「セレクト会食」を開催し、糖尿病専門
医・看護師と共に継続した療養指導に努めています。

●緩和ケアサポート

化学療法や疼痛コントロール中の食思不振時の対応
として、可能な限り嗜好に配慮した「ワンプレート食」
の提供に取り組んでいます。また、患者様の記念日には、
手づくりケーキをお贈りして緩和病棟での
お祝い会を行っております。



初夏の手毬寿司

栄養・食事は疾病予防や進展防止・回復・予後
などの過程における治療に大きく関与します。

病院のお食事は、体に必要な栄養を体内に取り入
れるだけではなく、心理面でも充実感が得られるこ
とが大切です。

当院は、1975年の創立以来、病院給食を直営
で運営しています。直営の良さの一つは、豊かな自
然に恵まれた佐伯の食材を吟味し、ひと手間をかけ
て調理することで心まで豊かになり、楽しんでい
ただける食の提供が実現できることです。患者様の治
療状況や身体状況を考慮し、個々に応じた喜ばれる
食事提供に努めております。



オリジナルレシピ「太陽の食卓」

栄養指導

個人栄養指導と集団栄養教室を開催してあり
ます。ご希望に応じてご家族との会食をしながら
お食事に対する疑問や問題点・食生活改善の
ご相談に管理栄養士が対応いたします。

(指導室：1F 糖尿病センター)

学術発表、研究について

2014年度は、大分県病院学会、糖尿病学会九州
地方会、日本静脈経腸栄養学会においてチーム医療
による臨床経験から学んだ知識と専門的技術を活か
した栄養管理の取り組みについてご報告させてい
たきました。今後も、チームの和を大切にして患者
様の適切な栄養管理に努め、質の高い心豊かな思い
やりのある医療の提供を目指したいと考えており
ます。

2015, 5月 食事療養部課長 豎山恵子

がんサロン 「つばさの会」のご案内

地域で生活されているがん患者さんとご家族の方の交流会となるがんサロン「つばさの会」を平成24年1月より開催しております。病気のこと、生活のこと、趣味のこと…など悩みや楽しみを遠慮なく語り合える場にしたいと思っております。皆様の日々に、少しでも“元気なつばさ”が生まれますよう、地域のみなさまのご参加を心よりお待ちしております！！



【問い合わせ】

～平成27年の開催予定～

5月26日(火) 13:30～

6月23日(火) 13:30～

7月28日(火) 13:30～

8月25日(火) 13:30～

※(9月は祝日のためお休みします)

内容はミニ講義(30分)と交流会(約60分)です。

場所：佐伯中央病院4階研修室

参加費無料(事前申し込み不要)

※ 患者さんやご家族をサポートしている医療福祉関係者の参加もお気軽にご参加下さい。

※ 参加に関して佐伯中央病院への通院の有無は問いません。

佐伯中央病院 0972-22-8846
地域連携・医療介護相談室 谷田/中村まで

研修 ひとこま



(リーダー向け研修に参加して)

平成27年2月19日に当院に職業能力開発協会サービスセンターの藤原通子先生をお招きして「活力のある職場を作るリーダーを目指して」と題して当院のリーダー向け研修が開催されました。

特に効果的なコミュニケーションを学ぶことと、自己理解の分析を中心に時には笑いありで楽しく学ばせていただきました。リーダーがメンバーの力を効果的にそして自発的に発揮できるようにするには、よく観察することが重要なことのひとつだと思います。(観察の仕方に技術や知識も必要ですが)

また他者理解の前に自己理解が必要だと学びました。福祉分野にも自己覚知の重要性があり、通じるものがあると感じました。

ここだけの話にせず継続して勉強して、よりよい職場作りに貢献できればと思っております。

(連携相談室・MSW中村)

<理念>

- 一、患者様に視点をおき、心のかよう思いやりのある医療を提供します。
- 一、専門的技術を生かし、より効果的な医療を追求します。
- 一、地域と共に歩み、医療を通して地域文化の発展に貢献します。

<基本方針>

- 一、生命・人格・人権を尊重し、質の高い医療を目指します。
- 一、時代のニーズに合った医療サービスを提供します。
- 一、健康づくり、疾病予防の担い手として、地域医療に貢献します。
- 一、志高く、豊かな人間性を有する医療人の育成を目指します。
- 一、効率的な運営を行い、働きやすい職場づくりに努めます。

<患者様の権利>

- 一、良質な医療を受ける権利
- 二、選択の自由と自己決定権
- 三、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利
- 四、情報を得る権利
- 五、プライバシーを守られる権利
- 六、尊厳を守られる権利



発行元：佐伯中央病院

〒 876-0851 大分県佐伯市常盤東町6番30号

TEL：0972-22-8846 FAX：0972-22-8844

発効日：平成27年5月1日